

石山・芸術の森地域 **芸術の森部会 ニュース**

これまで2つの連合会、4つの小学校を一体とした「石山・芸術の森地区検討委員会」として検討してきましたが、より議論を深めるために「部会制」を導入し、石山部会と芸術の森部会に分かれて検討しています。この検討委員会ニュースについても、各部会ごとに発行しています。

**第2回芸術の森部会
について**

9月10日（木）午後6時から、石山東小学校で第2回芸術の森部会を開催し、「常盤中学校付近に統合校を新設する案（以下、新設案という）」について、地域の皆様への意見募集の結果も踏まえて検討を行いました。

**意見募集の結果
報告について**

芸術の森部会ニュース（第1号）による意見募集の結果、地域の皆様から寄せられた意見（8件）について、事務局から報告がありました。

<（どちらかと言うと）新設案に肯定的な意見：2件>

- 新設案に賛成であり、常盤中学校と合築をして小中一貫校を目指せれば理想的だと思う。
- 子どもたちの通学負担を考慮すると、新設案であればやむを得ないと考えるが、新校舎ができるまでの暫定的な統合はすべきではない。

<（どちらかと言うと）新設案に否定的な意見：6件>

- 札幌市がすべきことは、教員の定数を増やし、教師と子供が放課後も一緒に過ごす時間を確保することであり、学校は現状のまま維持してその支援をすべき。
- 今は小さい学校の良さが見直されており、地域にある学校は無くさずに、地域の学校を充実させる方向で検討してほしい。
- 「適正規模」の教育的な根拠はなく、学校現場の切実な問題を解決することにはつながらないため、拙速な判断はすべきではない。
- 今ある2校が比較的新しく、新校舎を建ててまで統合する必要があるのか疑問であり、学校規模が大きくなると、子ども一人一人に寄り添うことが難しくなるのではないかと。
- 学校統廃合の本質は、教育費・教職員の吸い上げであり、子どもを犠牲にする行政・政治暴力というべきものであるから、石山・芸術の森地域の小学校の存続を求める。
- 地域の住民にとって小学校は、現在を生き未来を託す希望そのもの。少人数学級を進めて、教師と子どもが向き合う時間を確保できるようにしてほしい。

委員から寄せられた意見など

◆意見

第2回芸術の森部会では、委員から以下のようなご質問、ご意見がありました。

<全 般>

- 3千世帯を超えるこの地域の中から反対意見が6件ということであれば、そこまで反対の方が多いとは言えないのではないかと。
- 新設案で設置するまで暫定的な統合はせず、2校は現状のままであればやむを得ないという意見が、大多数の意見に近いのではないかと。
- 反対意見の中には、子どものためというよりも、教育現場の方々をカバーしようとする意見が多いようにも感じる。
- 今は高校はもちろん、中学校でさえなくなる地域もある。このような現実を踏まえると、統合の方向性はやむを得ないのではないかと。
- 反対の意見にしっかり耳を傾けるのは当然だが、内容自体は、これまでの検討で、ある程度議論されてきた部分なのかなと感じている。
- 反対の方の中には「小学校があるから引っ越してきた」という方もいるだろうし、いくら地域の子どものため、と言っても完全に納得してもらうのは難しい部分があるのではないかと。
- 保護者の中では、規模の大きい常盤小学校への統合といった噂があったため、今回の新設案への動揺もあったと思うが、一方で、この芸術の森地区で、両校が協力して新しい小学校をつくってほしいという前向きな雰囲気も感じている。
- 地域の雰囲気として、賛成ではないが、仕方がないという方は増えてきていると思う。バス通学をどうするかなどの具体的な条件面など、少しずつだが前向きな意見も増えてきているように感じている。
- 部会ではこれまで子どもたちのことを一番に考えて検討を進めてきたつもりである。どちらかの学校に統合するのは子どもたちの通学負担も大きいという意見から、新設案で検討してきたし、これからは子どもたちのためという視点で話し合おうとしている。そういう経緯をきちんと説明していくことで、反対の方にも、少しずつ理解してもらえるのではないかと。

<小規模校のメリットや少人数学級について>

- 小規模校のメリットに関する意見もあったが、人間関係の固定化など、さまざまなデメリットがあることにも留意すべき。
- 少人数学級を目指すべきとの意見があるが、少人数学級についてはPTAとしても必要性に同感であり、毎年要望している。ただ、児童数そのものが減少する学校の小規模化の問題とは若干論点が違うのではないかと。

- 意見にある教員定数は国や北海道で決めているようなので、この検討委員会で議論をしても難しいのではないかと。

<中学校との連携や小中一貫校について>

- 反対の方もいるが、このままでは教員数や行事、学習面に課題があるのも事実。意見にもあったが、例えば札幌市初の小中一貫校の設置など、未来志向で検討を進めていくべきではないか。
- 中学校との連携や、小中一貫校などを具体的に検討するのであれば、中学校の関係者の意見を聞く機会も設けるべきである。

<今後の進め方について>

- これまでの状況や検討経過を踏まえると、新設案で進めるという方向性は、ある程度見えてきたのではないかと。
- 地域の人間として、学校がなくなるのは寂しく、反対意見にも納得できる部分はあるが、未来志向で考えていくには、そろそろ結論を出す時期なのかとも感じている。
- 少子化の流れはやむを得ないため、子どもたちにも地域にもメリットがあるような方向で進めていくべき。この地区には市立大学もあり、そのような地区で、小学校と中学校が同じ場所に建つことで、みんなにとってプラスになるような検討ができるのではないかと。
- 「統廃合」という響きはどうしてもネガティブな印象。子どもたちのためにも、そのような表現は意識して使わず、2校が1校になって、「新しい学校を作る」ということを前面に出すべきと思う。

<その他>

- 学校は勉強だけでなく、生活習慣やコミュニケーション能力などを身に付ける場でもあるが、これら全てを教師が教え込むのは困難。実際は、子ども同士がその関わりの中で自ら習得していく部分も多く、極端に言えば、私たち大人が子どもにしてあげられるのは、そういうことが可能な環境作りだと思う。石山東小の児童が100人を切る状況も考えれば、少しでも早くというのが率直な思い。
- 新設校の開校が最短でも平成32年ということであれば、今の1年生が6年生になる。現在の子どものことを考えれば、交流事業についても、できることから徐々に行なっていくべきではないか。
- 交流事業の実施については、学校間の距離や、カリキュラムの違い等、整理すべき課題は多い。無理して交流事業を行い、子どもたちが本来学ぶべきことを学べなくなれば本末転倒である。統合が近くなれば交流が必要なのは当然だが、しっかりとした準備が必要。

◆質問

- 新設案で進む場合、今後、予算の要求等を行うことになると思うが、もし予算が認められなかったらどうするのか。

(事務局回答)

この部会の方針として新設案を進めるということであれば、事務局は予算の要求をしていきます。予算については、今後、財政部局との調整や市議会での議論を経て決定されますので、市の財政状況等も踏まえると、現時点で大丈夫と断言できるものではありません。予算が認められなかった場合は、翌年も引き続き要求していきますので、ご理解をお願いします。

第2回の芸術の森部会における決定事項

このような検討から、第2回芸術の森部会では以下の方針を確認しました。

ときわスポーツコミュニティ広場に新しい学校（統合校）を新設する方向で検討を進める。

新しい学校に関しては、小中連携や小中一貫等を含めた「未来志向型」の検討を行う。

事務局では学校の新設に関する予算要求に向けた準備を進める。

第3回の芸術の森部会について

第3回の芸術の森部会は、新しい学校の設置に向けて通学などの課題について重点的に検討することとし、11月中旬頃の開催を予定しています。

■ ご意見・ご質問は、下記の検討委員会事務局までお寄せ下さい ■

石山・芸術の森地域 学校規模適正化検討委員会 事務局

札幌市教育委員会 生涯学習部 学校施設課（学校規模適正化担当）

〒060-0002 札幌市中央区北2条西2丁目 S T V北2条ビル

T E L 011-211-3836 / F A X 011-211-3837

E-mail gakkokibo@city.sapporo.jp

※ この検討委員会ニュースは、札幌市教育委員会ホームページにも掲載予定です。
<http://www.city.sapporo.jp/kyoiku/top/tekisei/kentoutiiki.html>